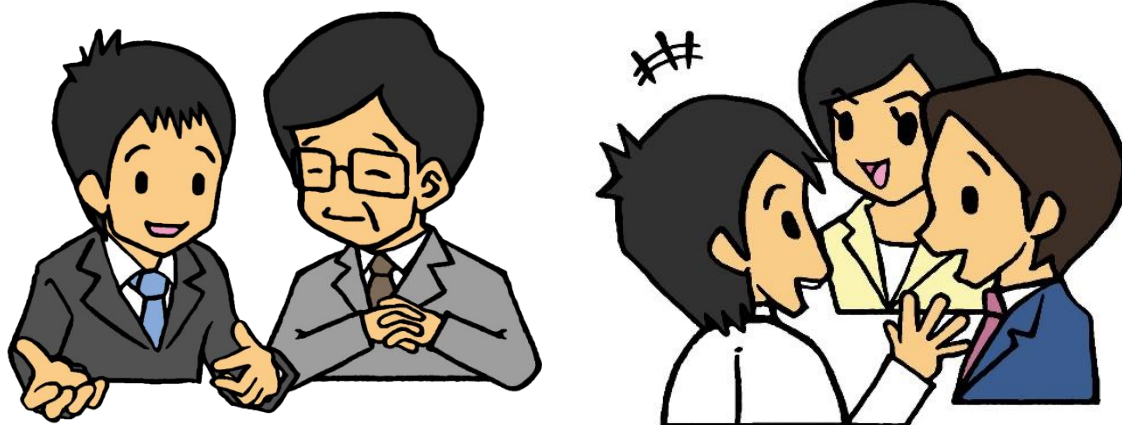


高等学校 OJT 推進者のための
授業力向上ガイドブック



岩手県立総合教育センター

岩手県内の高等学校においては、日々の多忙な職務の中、教員の資質能力の向上を目指して、様々な取組が実施されています。特に、授業力向上の取組に注目すると、通常の授業をお互いに見合う取組や、校内での研究授業など、各校の特徴や実情に合わせた取組が見られます。

その中で、取組の企画・運営を担当する先生方は、

「どのようにして時間を確保するか」

「どのようにして全教員で取り組むか」

「どのようにして効果を実感できるようにするか」

など、様々なご苦労をされています。

そこで、このガイドブックは、授業力向上の取組を企画・運営を担当する先生方が、**OJT (On the Job Training : 日常の職務を通じた能力向上)** の考え方をもとに、**各校の既存の取組を活用した授業力向上の取組を充実させる方法**を紹介しています。

主に授業力向上の取組について取り上げていますが、多様化・複雑化する教育課題に対応するために求められている、教員の資質能力の向上に関わる取組全般においても応用できる方法です。

このガイドブックを通して、授業力をはじめとする教員の資質能力を向上させる取組が、これまで以上に充実することを願っています。

OJT の責任者と推進者

このガイドブックでは、OJT の責任者と推進者の役割を以下のようにとらえています。



OJT 責任者 → 管理職

- 学校のミッションやビジョン、必要な資質能力を明確に示します。
- OJT 推進者を任命し、OJT の全体計画を指導します。
- OJT を実施しやすい環境を整え、活動を支援します。



OJT 推進者 → 教務主任など

- 管理職の指導のもと、OJT の全体計画を立案し、運営します。
- 管理職と一般教員の橋渡し役として、双方の意見を集約し、調整します。

このガイドブックは、主に
OJT 推進者のために作りました

目次

1 OJT と授業力向上	1
2 OJT 推進者の役割	
(1) PDCA サイクルを作る	7
(2) 既存の取組を充実させる	9
3 既存の取組の充実例	
(1) 通常の授業を互いに見合う取組, 研究授業, 研修会を工夫する	15
(2) 個人の授業力向上の取組を工夫する	19
(3) 職場内の雰囲気づくりを工夫する	21
4 県内の実践事例	
(1) 管理職の積極的な支援による OJT ～岩手県立遠野高等学校～	23
(2) 小集団の機動性を生かした OJT ～岩手県立花北青雲高等学校～	31
(3) 教育実習生への指導を活用した OJT ～岩手県立盛岡第二高等学校～	37
(4) 定期考査期間中に OJT のきっかけづくり ～岩手県立盛岡第二高等学校～	39
参考文献	41

1 OJT と授業力向上



「OJT」を全教員に理解させるには、
どのようにするとよいですか？

一般的な OJT のとらえ方は、

オージェイティー

O J T = On the Job Training (日常の職務を通じた能力向上)

ですが、より具体的に説明することが大切です。

このガイドブックにおいては、

**学校内の既存の取組を活用しながら、
「効率よく教え合い学び合う仕組み」を充実させる**

↓ すると…

個々の教員の資質能力を高め、自立・成長を支援できる

というように、とらえています。

OJT のとらえ方を明確に

OJT とは、人材育成の概念の一つで、日常の職務全体を通して必要な知識・技能などを身につけさせることを指しています。近年、教育現場においても、OJT の考え方が注目されています。

従来の人材育成の多くは、「先輩から後輩への一方向の教えと学び」というものでした。しかし、社会の急激な変化に対応するためには、「年齢・経験を問わない双方向の教え合いと学び合い」を行い、「自立した人材の育成」が求められるようになってきました。そこで、このガイドブックでは、双方向の教え合い学び合いをもとにして、**学校における OJT を「学校内における職務全般を通して、意図的計画的に行われる人材育成の活動及びシステム」ととらえ、「相互に教え合い学び合う OJT」**を目指しています。

ただし、OJT は抽象的な概念であるため、実施にあたっては、各学校で OJT のとらえ方を明確にし、OJT 責任者（管理職）と OJT 推進者（教務主任など）との間で、共通理解を図ることが大切です。

既存の OJT をより効果的な取組に

OJT という言葉を使うと、新たな取組のように感じるかもしれませんが、日常の職務を通じた同僚間の教え合い学び合いは、すでに行われています。例えば、通常の授業を互いに見合う取組や校内での研究授業、研修会、また初任者に対して職務内容を教えたり、経験させて学ばせたりする取組も OJT の要素を含んでいます。

しかし、その実施内容や時期・時間など質的・量的な面で負担感を抱いている教員が多いこと、教え合い学び合いが必要だと思っても、「多忙」を理由に実施できない状況にあること、実施しても単発で終わってしまい、次の取組に反映できていないことなど、改善の余地を残しています。

そこで大切なのは、**単に新たな取組を増やすのではなく、既存の取組を振り返り、いかに効果的な取組にするか**という視点です。

同僚の成長にも注目

従来、校内における研修の機会において、「自己の成長」を意識することはあっても、同僚に教える、同僚を育てるという「他者の成長」についてはあまり意識されてきませんでした。しかし、社会の急激な変化や教育現場における多様化複雑化した課題を踏まえると、同僚間で協力して組織的に取り組むことが、これまで以上に重要になってきました。

もちろん、「他者の成長」に携わる中で、自分自身についても気づく機会が得られ、自分自身も成長することができます。校内において教え合い学び合いを実施するに当たっては、「**自己の成長**」だけでなく「**他者の成長**」も目指すという考え方を大切にしましょう。

授業力向上の取組を通して、教え合い学び合いの充実のきっかけに

OJT の考え方は、校内における様々な業務において活用することができます。ただし、このガイドブックでは、あえて授業力向上の取組に焦点化して取り上げています。授業は、全教員が日々行っている業務であり、教員業務の核でもあります。生徒にとっても、1日の学校生活の大半が授業から成り立っています。また、教員が授業で発揮している力（教材を作る力、授業計画を立てる力、学習意欲を引き出す力、発問する力、評価する力など）は、授業のみならず、その他の職務においても活用されています。そこで、**OJT の考え方をもとにした授業力向上の取組を通して、校内における教え合い学び合いの仕組みをさらに充実させたい**と考えています。

この取組をきっかけに、学級経営、生活指導、進路指導、部活動指導、生徒会活動などにおいて、教員個々の資質能力を向上させるために、各校における様々な職務においても、OJT の考え方を生かした資質能力向上の取組ができるものと考えます。

1 OJT と授業力向上



「授業力」を全教員に理解させるには、
どのようにするとよいですか？

岩手県立総合教育センターでは、授業力を4点にまとめています

① 教育に対する姿勢

- 使命感 熱意 子どもへの愛情 責任感
- 教育観 など

② 授業構想力

- 教材解釈 教材、教具開発 授業計画 評価計画
- 指導と評価の一体化 など

③ 子ども理解・統率力（学習集団マネジメント）

- 生徒理解 統率力 人間関係構築力 学習意欲の喚起 など

④ 授業展開力（指導法）

- 指導技術（発問、板書、学習形態、発言への対応、ICT活用など）
- 環境構成 など

岩手県立総合教育センター（2013）をもとに作成

「わが校に必要な授業力」を明確にして共有を

現時点では、国による授業力の明確な規定はなく、各自治体の教育委員会・教育センターなどの教育関係機関や大学などの研究機関、各学校において独自に規定しているのが現状です。

そこで、まずは各学校のミッションやビジョンを基に、「わが校に必要な授業力」を明らかにし、焦点化したものを全教員で共通理解を図ります。次ページには、岩手県立総合教育センターにおいて規定した4つの授業力に基づいた「授業力チェックシート」を示しました。「わが校に必要な授業力」の焦点化の検討資料として、また、個々の自己評価や振り返りのワークシートとして活用できます。

《例》授業力チェックシート

項目	観 点		評 価				
姿勢	1	表情豊かな対応をしている。	A	B	C	D	無
	2	適切な言葉遣いや服装をしている。	A	B	C	D	無
授業構 想力	3	学習指導要領と生徒の実態を踏まえて、学習目標を掲げている。	A	B	C	D	無
	4	年間指導計画に則り、授業進度が適切である。	A	B	C	D	無
	5	評価規準や評価方法が適切である。	A	B	C	D	無
	6	前時までの学習内容が全生徒に定着しているか、把握している。	A	B	C	D	無
	7	必要に応じたプリントや資料などを用意している。	A	B	C	D	無
	8	習熟を図る時間を適切に設定している。	A	B	C	D	無
	9	思考や活動に適切な時間をとっている。	A	B	C	D	無
	10	必要に応じて計画を修正して指導している。	A	B	C	D	無
子ども 統率解 力	11	生徒のつまづきをしっかりととらえている。	A	B	C	D	無
	12	生徒間に、互いを尊重し、学び合う雰囲気育てている。	A	B	C	D	無
	13	発達段階に応じた望ましい学習規律を定着させている。	A	B	C	D	無
	14	一部の生徒に偏ることなく全員を参加させようとしている。	A	B	C	D	無
	15	机間指導などを行い、個に応じた適切な指導・助言をしている。	A	B	C	D	無
授 業 展 開 力	16	指導形態を工夫している（グループ活動など）。	A	B	C	D	無
	17	指導方法を工夫している（視聴覚機器の利用など）。	A	B	C	D	無
	18	授業内容を構造的に示している。	A	B	C	D	無
	19	文字の大きさや書く速度が適切で、丁寧に書いている。	A	B	C	D	無
	20	色チョークや紙板書などの使い方を工夫している。	A	B	C	D	無
	21	全員に対して、分かりやすい発問・指示をしている。	A	B	C	D	無
	22	多様な考えを引き出す発問になっている。	A	B	C	D	無
	23	補助発問などで思考を広げたり深めたりしている。	A	B	C	D	無
	24	ノート指導を適切に行っている。	A	B	C	D	無
	25	家庭学習についての指示(内容・手順など)を具体的に行っている。	A	B	C	D	無
	26	教室の学習環境を整えている。	A	B	C	D	無

A：大いにあてはまる B：あてはまる C：あてはまらない D：まったくあてはまらない
無：担当教科では該当なし

岩手県立総合教育センター（2013）をもとに作成

1 OJT と授業力向上



「授業力向上の取組は、同じ教科の教員としかできない」という声があるのですが…

「教科の専門性」だけではなく、 「教育の専門性」も大切であることを説明します

例えば、授業の形態、方法、技術に注目すると、

- どのような学習形態（一斉、小集団、個別など）で行っていますか？
- どのような教授方法（講義、問答、討議など）で進めていますか？
- どのような教材をどのような場面で使っていますか？
- どのような言葉遣い、身振り、表情、視線、環境で行っていますか？

など、教科の枠を超えても、教え合い学び合いのできる点がたくさんあります。

「教育の専門性」にも注目させる

教員は、「教科の専門家」だけではなく「教育の専門家」であることが欠かせません。生徒にどのように教えるか、生徒をどのように育てるかという点は、教科の枠を超えて、各教員が日頃の授業の中で意識して実践しています。この点を明らかにすることで、教え合い学び合いのきっかけが生まれます。

また、環境問題のように、様々な教科において学習機会のある内容については、教科を超えて教え合い学び合う機会を設けることで、より効果的な指導をすることができます。

教科のみならず、校種を超えても同様のことが言えます。小学校・中学校での学びを積み重ねた結果、今の高校生の学びがあります。高校生たちは、小学校や中学校において、どのような内容をどのような学び方で身に付けてきたを知ることは、高等学校における授業にも役立ちます。生徒への理解を深める上でも、教科や校種を超えて学ぶことも大切です。

生徒を観察する 生徒の立場で参観する

授業を参観する際は、授業者に注目するだけではなく、生徒にも注目します。日頃教えている生徒が、他教科の授業ではどのように取り組み、どのような反応をしているかを観察することで、生徒理解をさらに深めることができ、自分自身の授業改善にも役立てることができます。

生徒の立場になって参観することも有効です。「分かりやすい」「分かりにくい」という観点で参観することは、同じ教科の教員よりも、他教科の教員のほうがより客観的にできます。



「教員に求められている力は、授業力の他にもある」という声があるのですが…

授業力の向上は、教員に必要な資質能力の向上にもつながることを説明します

ちなみに、中央教育審議会答申（2012）では、「これからの教員に求められる資質能力」として、以下の3点を挙げています。

① 教職に対する責任感，探究力，教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力

〔使命感や責任感，教育的愛情〕

② 専門職としての高度な知識・技能

□ 教科や教職に関する高度な専門的知識

〔グローバル化，情報化，特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む〕

□ 新たな学びを展開できる実践的指導力

〔基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等を育成するため，知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習，協働的学び等をデザインできる指導力〕

□ 教科指導，生徒指導，学級経営等を的確に実践できる力

③ 総合的な人間力

〔豊かな人間性や社会性，コミュニケーション力，同僚とチームで対応する力，地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力〕

中央教育審議会（2012）「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）」をもとに作成

授業には、教員としての資質能力が凝縮している

授業は、教員の一日の職務の中で最も大きな割合を占めています。授業には、授業構想力や授業展開力だけでなく、教育に対する姿勢や子ども理解・統率力など、教員に必要な要素が凝縮されています。授業力向上の取組を進めることで、教員として総合的な資質能力の向上に効果が及ぶと考えられます。

また、中央教育審議会答申において、教員の資質能力の向上にあたり、同僚と一緒に取り組むことを求めています。OJT の考え方をもとにした授業力向上の取組は、この答申の内容を具現化する方法の一つでもあります。この取組をきっかけにして、学級経営，生活指導，進路指導，部活動指導，生徒会活動などの様々な職務においても、OJT の考え方をもとにした資質能力向上の取組ができるものと考えます。

2 OJT 推進者の役割

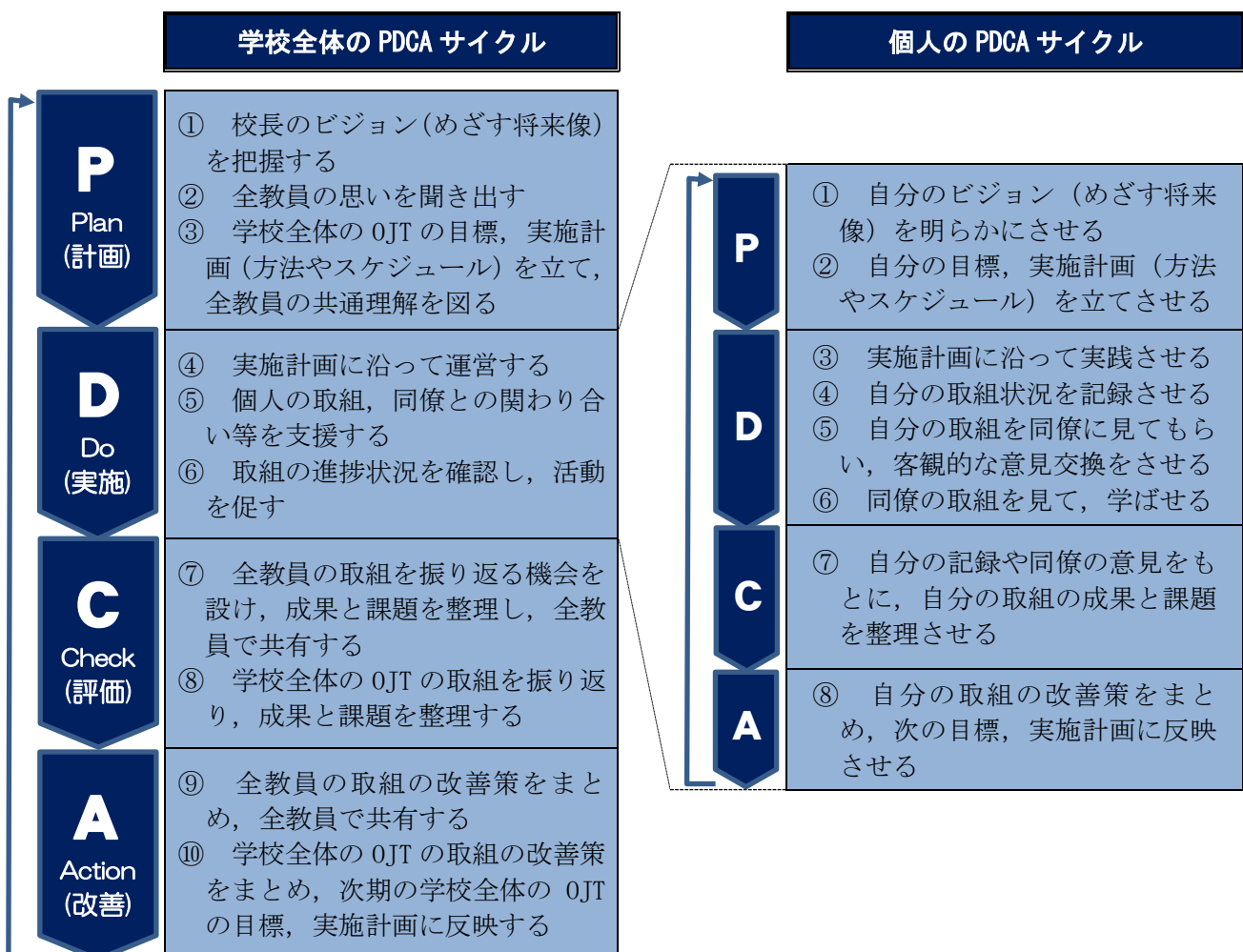
(1) PDCA サイクルを作る

OJT の考え方を生かした授業力向上の取組では、PDCA サイクルを意識して進めると、より効果的に進めることができます。

PDCA サイクルとは、**計画 (Plan) → 実行 (Do) → 評価 (Check) → 改善 (Action)** の過程を順に実施し、最後の改善を次のサイクルにつなげ、継続的な改善を進めるマネジメント手法です。このサイクルは、学校全体の年間の取組に対しても、個人の1回ごとの授業の取組に対しても当てはめて考えることができます。

学校における様々な取組を見ると、綿密な計画や優れた実践は数多く見られますが、実践後の評価や次の取組に向けての改善までは、十分に行われていない状況も見られます。そこで、PDCA サイクルを意識して進めるにあたり、特に、**評価 (Check) と 改善 (Action) をおろそかにしない**ことを留意して進めます。

OJT 推進者の PDCA サイクル 《例》



学校全体の PDCA サイクルを効果的に回すコツ

Plan (計画)

「他人のこと」ではなく「自分のこと」ととらえてもらう

一般に、自分に関わる取組は、主体的に行動できるものです。そこで、各教員の思いを早期に聞き出し、「自分の思いが反映された取組」と思ってもらえるようにします。

評価方法（何をもって目標が達成されたか）も計画する

評価（Check）と改善（Action）をおろそかにしないためにも、実施する前に、何をもって目標が達成されたと判断するかについても検討し、計画に入れておきます。

Do (実施)

日常的な声かけを通して、意欲を喚起し、進捗状況を確認する

会議の場で指示を出したり、報告書を提出させたりするだけでなく、日々の声かけによっても、円滑な実施を促すことができます。

管理職との面談の機会を活用する

「勤務状況確認シート」の面談の機会を活用し、個に応じた意欲づけや指導助言を管理職に行ってもらえるのも一つの方法です。

Check (評価)

「良かった/悪かった」よりも、具体的に評価する

取組の結果「〇〇に気付くことができた」「〇〇を身に付けた」など、できるだけ具体的に振り返ることで、改善策もより深まり、次の計画にも生かされます。

Action (改善)

うまく実施できた計画も、必ず見直す

どのような計画にも、さらなる発展を目指す余地は残されています。社会も子どもたちも絶えず変化していますので、現在、未来に合った計画になるように改善します。

(2) 既存の取組を充実させる

既存の取組を少し工夫して行うことで、校内における教え合い学び合いの仕組みとしてさらに充実させることができます。これがこのガイドブックが目指すOJTです。

県内の高等学校における既存の取組を踏まえると、以下の4点を意図的計画的に行うことで、授業力向上の取組はさらに充実でき、その効果を実感できるようになると考えます。

ポイント①

目標, 成果の 共有

校長が示したビジョンなどを共有し、全教員で同じ方向へ向かって取り組むことで、組織としてより高い成果を挙げることができます。

また、個々が得た知識や技能を同僚間で共有することで、効率よく学びを深めることができます。

ポイント②

計画, 実践の 振り返り

特に個人の取組は、PCDAサイクルの計画(Plan)と実施(Do)で終わることが多いので、意図的計画的に振り返る機会を設け、評価(Check)と改善(Action)につなげます。

振り返りの手法として、「アクション・リサーチ」を紹介します。

ポイント③

機動力を生かした 小集団活動

小集団を構成して、授業を見合い、意見を交換し合う機会を設けることは、全教員で一斉に行うことよりも、比較的容易にできます。

また、少人数での話し合いは、主体的に参加しやすく、思考をより深めることができます。

ポイント④

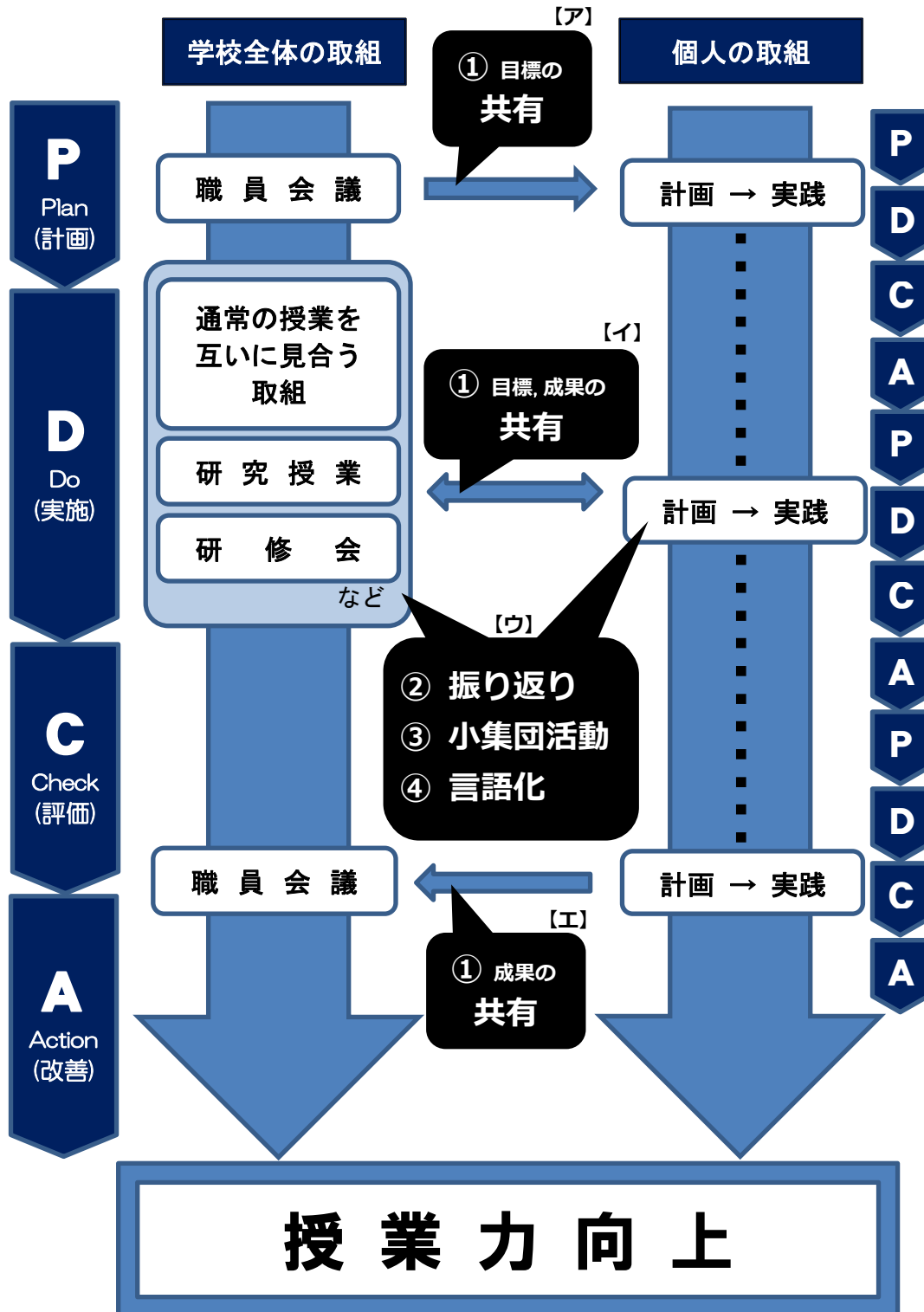
知識, 思考の 言語化

自分が持っている知識や、考えたこと、学んだことなどを書き表したり、同僚に話したりすることで、思考をより深めることができます。

また、それらを保存し、定期的に整理することで、取組を振り返り、改善につなげることができます。

※詳しくは11ページ以降で説明しています

《例》既存の取組を充実させるポイント



【ア】
最初に全教員で学校全体の目標を共有します。

【イ】
通常の授業を互いに見合う取組，研究授業，研修会などの目標や成果を共有します。
また，それらの取組において，個人の取組の目標や成果を活用します。

【ウ】
学校全体の取組，個人の取組共に，実践後の振り返りを行い，PDCAサイクルを回します。そして，改善策も含めて言語化します。
また，言語化したものを小集団内で発表し，客観的な意見をもらい，深めます。

【エ】
最後に，個人の取組の成果を共有し，取組全体を振り返り，次のサイクルの取組の計画を立てます。

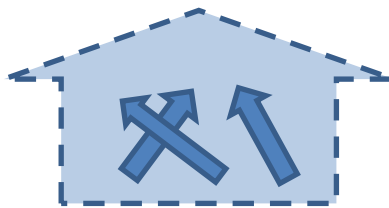
ポイント①

目標, 成果の 共有

★ 目標の共有

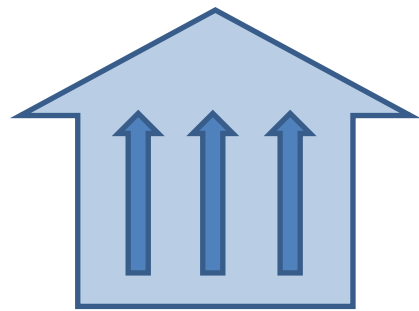
各学校において、伝統的に掲げられている校訓や教育目標、年度初めに示される学校経営方針などは、その学校のミッション（存在意義・使命）やビジョン（めざす将来像）を踏まえたものになっています。これらを全教員が把握し、目標を共有することにより、全教員が同じ方向へ向かって取り組むことができ、組織としてより高い成果を挙げることができます。各教員においても、効率よく職務を遂行することができ、求められている資質能力の向上を図ることができます。

また、共有する目標は、全教員が共感し、自身にとっても役立つと感ずることができるものにします。例えば、「OJT」や「人材育成」という言葉で共有が難しい場合は、「教え合い」「学び合い」など、イメージしやすい言葉を用いて目標を掲げると、共有しやすくなります。



個々の教員が目標を共有せず、バラバラな取組をすると…

- 互いの力を打ち消し合うことができ、頑張っても十分に評価されず、ストレスを感じる
- 連帯感がなく、学校全体の力も高まらない



個々の教員が目標を共有し、意志疎通のある取組をすると…

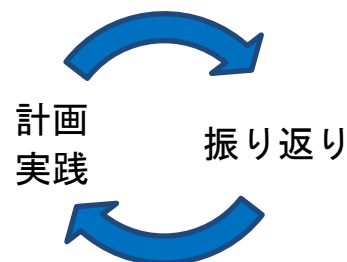
- 互いの力を高め合うことができ、頑張りも適切に評価される
- 連帯感が高まり、学校全体の力もさらに高まる

★ 成果の共有

各教員の実践の成果について、実践した当事者のみならず全教員で共有することは、効率よく効果的な学びへとつながります。多忙化が問題視される今、同僚間で共有できるものは積極的に共有し、省力化を図ることも意図的計画的に進める必要があります。

ポイント②

計画, 実践の 振り返り



計画や実践の良かった点や改善点を振り返り、改善策を考え、次の実践に備えることで、さらなる成長を図ることができます。

自己成長のために自ら行動 (action) を計画して実践し、その結果を観察し、その結果に基づいて振り返る実践研究 (research) のことを **アクション・リサーチ** と言います。アクション・リサーチは実践と振り返りを繰り返し、自己成長を目指すものです。この手法は、教育現場のみならず、産業界やコミュニティ開発の分野でも発展してきました。実施方法の詳細は、様々な考え方がありますが、いずれにおいても共通しているのは、「自らの実践を振り返ることを重視」していることです。

一般に、授業の計画と実践までは時間をかけて丁寧に行うことが多いですが、実践後の振り返り (評価と改善策をまとめるなど) は十分に行われていないことが多く見られます。多忙な時こそ、ぜひ、実践後の振り返りと、振り返りを次の実践に生かすというサイクルを意識して、取組を継続してみましょ。

ポイント③

機動力を生かした 小集団活動

機動力のある小集団を構成して、授業を見合ったり意見を交換し合ったりすることで、客観的な振り返りや改善をすることができます。

小集団での活動は、共に考え、行動することによって、大規模な集団には見られない優れた機能を発揮できるものとして、あらゆる組織で取り入れられてきました。小集団による活動は機動的であり、人間の行動や知識の整理・発展が促されます。例えば、授業参観や授業後の検討会などが開催しやすくなります。また、少人数での検討会は、自分の意見が言いやすく、思考を深めやすいという利点もあります。他にも、小集団の機能を生かした活動により、以下の効果が期待されています。

- | | |
|--------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 創造的な活動ができる | <input type="checkbox"/> 問題を効果的に解決する |
| <input type="checkbox"/> やる気を高める | <input type="checkbox"/> コミュニケーションが確かになる |
| <input type="checkbox"/> チームワークをよくする | <input type="checkbox"/> パーソナリティを育てる |
| <input type="checkbox"/> 一人一人の能力を高める | <input type="checkbox"/> 責任ある態度が身につく など |

小集団研究所編 (1986) による

ポイント④

知識、思考の言語化

★ 言語化により、自分の考えを持って主体的に取り組むことができる

□ 自分の考えを持って臨む

自分の考えを持つことによって、「自分に関わること」として主体的に取り組むことができ、より高い成長感やモチベーションを得られます。例えば、自分の考えを持たないまま、研修会や講演会に参加しても、十分な成長感が得られず、効果は少なくなってしまう。これはOJTにおいても同様です。

他者の考えを見聞きする前に、まず自分の考えをしっかりと持つことが大切です。自分の考えを持った上で他者の考えを見聞きすると、自然と、自分の考えと他者の考えを比較し、同じか、似ているか、異なっているかを判断します。その際、自分の考えを振り返り、深めようと思いが働きます。そして、新たなことに気づき、学びのきっかけが生まれます。

□ 自分の考えを言語化すると、より明確になる

自分の考えを文字にしたり、他者に話したりすることで、新たな気づきを得られたり、さらに考えが深まったりします。これは、これまでの学習や経験の中で作り上げられた、表面化しない知識や技術である「暗黙知」を振り返りながら再構築し、より強力な考えにしている作業とも言えます。うまく言語化できない場合は、自分の考えが十分にまとまっていないとも言えます。言語化すると、同僚との教え合い学び合いの際にも役立ちます。

□ 自分の考えは、絶えず発展させる

教員は絶えず学び続ける専門家です。生徒の実態や社会の変化に応じて、自分の考えをさらに発展させていくことが求められます。自分の考えは完璧だととらえるようになると、生徒の成長を妨げたり誤った方向に導いてしまう恐れがあります。

自分の考えを言語化することで、過去の考えと対比することも容易になり、自己の変化や成長を実感することができます。

□ 他者の考えに触れることで、自分の考えは発展する

言語化により、他者の考えに触れやすくなり、新たな気づき生まれ、自分の考えをさらに発展できます。自分の考えを言語にして伝えると、聞き手にもよい気づきを与えます。他者の考えに触れる方法は、校外の研修会、読書などがありますが、職務を遂行しつつ、お金もかけずにできるのは、同僚の考えに触れることです。

★ 言語化により，保存，振り返りが充実できる

言語化したものは，継続して取りためて，整理する機会を設けると，振り返りをさらに深めることができます。このように，自分の取組の記録を取りためておいたものを「**ポートフォリオ**」と言います。

参考までに，『高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』（2008）において，評価方法の一つとしてポートフォリオが紹介されています。生徒の手本として，自ら実践してみたいものです。

授業力向上を目指したポートフォリオの進め方《例》

ア 見通しを明確にする

ポートフォリオをなぜ作るのか，何を取りためるのか，どのくらいの期間をかけて作るのか，どのように活用するのかなど，あらかじめ確認した上で取り組むと，長続きさせることができます。

イ 時間経過の順に取りためる

授業実践に関係するものを大小問わず，時間経過の順に取りためます。

《例》取りためる資料

- 自他の教育実践の成果と課題
- 指導案
- 教材研究メモ
- 学習プリント
- 文献
- 授業記録
- 生徒の作品
- 研究会記録（他の教員から指摘された内容や改善策など）
- 写真・VTR
- 研修会資料
- 実践ごとの所感 など

ウ 整理する機会を設ける

取りためたものを観点に沿って整理し，ポートフォリオを再構築します。この過程で感じたことや考えたことを文章や図表にして，それも一緒に綴っておきます。

《例》整理する観点

- 授業力の規定に基づく（授業構想力，子ども理解・統率力，授業展開力など）
- 学習指導要領を踏まえた学習評価における観点（思考力・判断力・表現力など）

また，ポートフォリオの発表機会を設けると，必然的に整理する機会が生まれます。

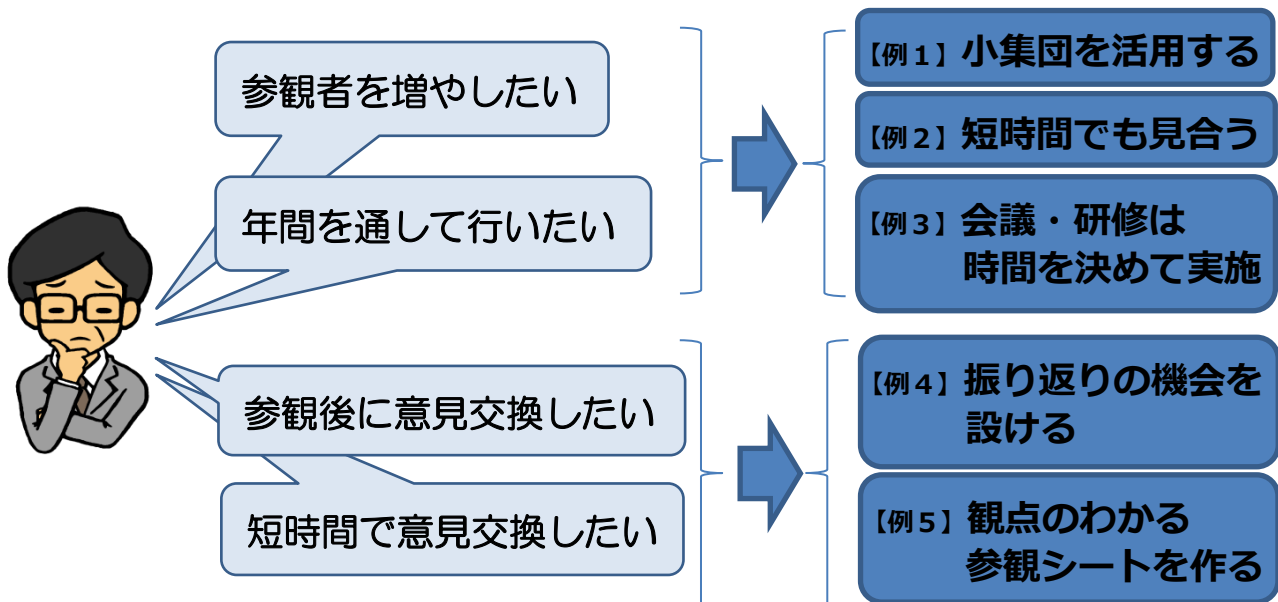
エ 成果を発表し，共有する機会を設ける

到達点や課題，次の目標などを確認し，見通しを持つ機会になります。

また，他の人のポートフォリオからも，気づいたり，学んだりすることができます。

3 既存の取組の充実例

(1) 通常の授業を互いに見合う取組, 研究授業, 研修会を工夫する



【例1】 小集団を活用する

ポイント① 共有

ポイント③ 小集団活動

- 1つの小集団につき4名程度にする
 - 多すぎると機動力が弱くなり、個々の主体的な取組が弱くなる傾向があります。
- 学校の目標などをもとに、目的に応じて小集団を構成する
 - 《例》 ・教科内容の本質を追求したい ⇒ 同教科の先生で
 - ・生徒の目線で授業を改善したい ⇒ 異教科の先生で
 - ・学年の生徒の理解を深めたい ⇒ 同じ学年団の中で
 - ・特定の課題の解決を図りたい ⇒ 同じ課題を持つ先生で
 - ・日頃関わりの少ない先生で行いたい ⇒ シャッフルして
- 同じ小集団のメンバーの授業は、必ず参観できるようにする
 - 小集団のメンバーの授業が、同じ時間に入っている場合は、時間割変更をします。
 - 参観後に検討会を実施する場合は、もう1時間分空きコマにしてもよいでしょう。

【例2】 短時間でも見合う

ポイント① 共有

ポイント③ 小集団活動

□ まずは、短時間でも学ぶきっかけを作る

- 通常の授業をお互いに見せ合う取組がうまく機能していない学校では、まずは短時間でも授業を見合う取組を継続することを大切にします。

□ 互いに授業を見合うためのルールを作り、全教員で共有する

- 「見て欲しいポイントのところだけ参観する（導入時や終末時だけでも構わない）」や「授業途中の出入りは失礼に当たらない」など、事前に確認しておきます。

【例3】 会議・研修は時期・時間を決めて実施

ポイント① 共有

□ 必要な会議・研修は、年間・月間予定、時間割に入れておく

- あらかじめ実施することが分かっていると、準備しやすくなります。

□ 会議・研修の開始・終了時刻、作業・発言時間を決め、厳守する

- 仮に参加予定者が全員揃わなくても、開始時刻になったら始めます。
- 発言に時間制限を設けると、冗長な話を減らすことができます。

□ 「もっと話したかった」と思わせる

- 終了後に自発的に発言、質問したりなど、自発的な教え合い学び合いが生まれます。

【例4】 振り返りの機会を設ける

ポイント② 振り返り

ポイント④ 言語化

□ 授業参観と振り返りは、セットで実施する

- 同僚の授業を参観して学んだことや、自分の授業に対して出された意見などを整理し、今後の改善策をまとめます。
- 1回目の参観で得られた改善策を2回目の参観ポイントにするなど、授業参観から得られたことをどのように生かしたかまで見取るように仕組みます。

□ 参観後の検討会を実施する場合は、その日のうちに行う

- 短時間しかできない場合は、授業公開を午前中に行い、昼休みに検討会を実施します。その際、検討する優先順位（例えば改善策の提案が最優先など）を決めると、短時間でも成果を上げることができます。

【例5】 観点（授業者の課題）のわかる参観シートを作る

□ 授業者は、参観ポイントを示す

ポイント① 共有

ポイント② 振り返り

ポイント③ 小集団活動

ポイント④ 言語化

- 参観ポイントとしては、
 - ・ 他の教員が活用できる点（自身の得意な指導方法が現れる点など）
 - ・ 他の教員から意見を聞きたい点（苦手としている点、今回特に工夫した点など）などが考えられます。

□ 参観者は、参観ポイントについて、「良かった点」「課題」を見つけ出し、「改善策」まで提案する

- 参観ポイントに基づいて参観すると、漠然と授業を参観するよりも、授業者にとっても参観者にとってもより多くの学びがあります。
- 単に「良かった点」「課題」を挙げるだけで終わることのないようにします。

□ 参観後の検討会ができない場合は、記入した参観シートを授業者に手渡す

- 参観者は、自分の学びだけでとどめず、授業者に還元します。

参観シートを活用した授業公開・検討会の流れ《例》

授業公開前～公開中の取組

- ① 授業者は、授業公開前に「参観ポイント」を記入した参観シートを作成し、参観者に配付します。
- ② 参観者は、特に参観ポイントに注目して参観し、「良かった点」「課題」と今後の「改善策」（どのように改善するとよいか）を具体的に記入します。

検討会での取組

- ③ 授業者は「参観ポイント」に基づき振り返り、気づいたことを簡潔に述べます。
- ④ 参観者は「参観ポイント」に基づき、「良かった点」「課題」を挙げます。
- ⑤ 参観者は改善策を提案し、授業者と一緒に整理します。
- ⑥ 最後に、授業者が全体を振り返り、今後の改善策を自分の言葉でまとめます。

参観シート《例》

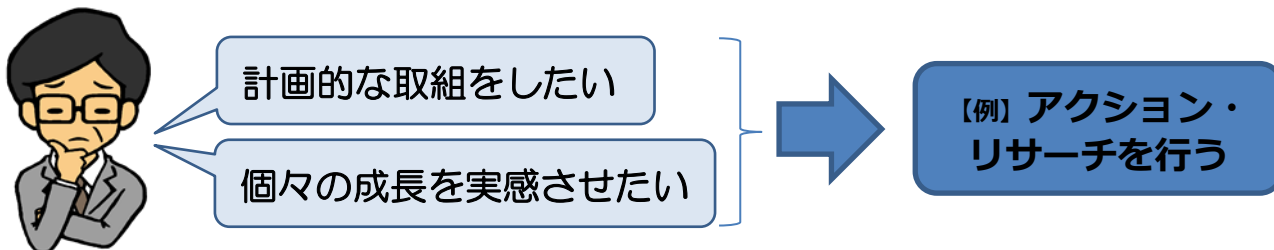
参観ポイント①	
参観ポイント②	

	参観ポイント①	参観ポイント②	その他 気になった点
良かった点 (+)			
課題 (-)			
改善策			

授業者によるまとめ

--

(2) 個人の授業力向上の取組を工夫する



【例】 アクション・リサーチを行う (→12 ページ参照)

ポイント① 共有

ポイント② 振り返り

ポイント③ 小集団活動

ポイント④ 言語化

学校のゴール像

- 学校のミッションやビジョン, 教育目標や学校経営計画などをもとに, 簡潔に表現します。

↓以下は, この学校のゴール像に向かっているものなのか, 常に確認をしながら進めます。

① 実態把握・課題設定

- 生徒や自身の実態を振り返り, 課題を具体化します。
- その課題が解決したかを後で評価できるように, 具体的なゴール像も示します。

② 手立ての立案

- 理論 (参考文献や先行実践など) や経験 (体験から得た知識) を参考にして, 設定します。

③ 実践計画の立案

- 学期ごとや単元ごとに振り返ることができるように, 計画を立てます。

④ 実践

- 手立てや計画をもとに, 授業実践を重ねます。
- できるだけ他の教員に聞き, 意見をもらいます。

⑤ 分析・考察

- 成果や次の課題は見えただか, 仮説や手立ては適切であったか振り返り, 分析, 考察します。

⑥ 改善策をまとめる

- 振り返りをもとに, 改善策をまとめます。

同僚からのコメント欄

- ①～③を記入した時点と④～⑥を記入した時点で, 同僚に見せて, 良かった点や課題を記入してもらいます (もしくは, 聞いたことをメモします)。

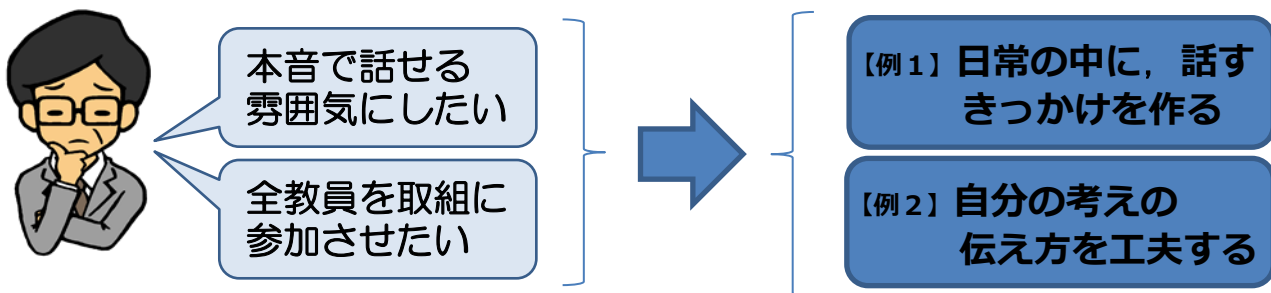
全体の振り返り

- 全体を通して学んだことや今後の留意点などを自分でまとめます。

アクション・リサーチ シート 《例》

学校の ゴール像				
段階	実施内容	記入日	自己記入欄	同僚からのコメント欄
P (計画)	① 実態把握・課題設定 「ここがうまく いかないなあ」			
	具体的なゴール像 「課題が解決すると こんな姿になる」			
	② 手立ての立案 「〇〇になるためには 何が必要か」			
	③ 実践計画の立案 「進め方を考えてみよう」			
D (実施)	④ 実践 「実際にやってみよう」 ※実践直後に気づいた ことをメモする			
C (評価)	⑤ 分析・考察 「うまくいったこと、 いかなかったことは」 「なぜ うまくいかなかったか」			
A (改善)	⑥ 改善策をまとめる 「どうすれば 改善できるのか」			
全体の 振り返り				

(3) 職場内の雰囲気づくりを工夫する



【例1】日常の中に、話をするきっかけを作る

ポイント① 共有

ポイント② 振り返り

ポイント④ 言語化

- 時間の工夫 (授業の空き時間, 昼休み, 放課後, 考査期間 など)
- 場所の工夫 (職員室, 更衣室・休憩室, 印刷室 など)
- 手段の工夫 (掲示板, プリント, グループウェアソフト など)
- 内容の工夫 (生徒のこと, 最近のニュース など)

例えば… 印刷室 を活用する

ほぼ毎日利用している印刷室は、声をかけなくとも自然と先生方が集まる空間です。しかも、印刷の最中は、別な仕事をするにしても、なかなか集中して取り組めない「すき間」時間です。

ぜひ、積極的に声をかけて、語り合うきっかけを作ってみましょう。ところが、「何を話せばよいか分からない」ということもあるかと思います。そこで、話題を提供し、話をするきっかけを作ることも考えられます。

話をするきっかけを印刷室に作る方法《例》

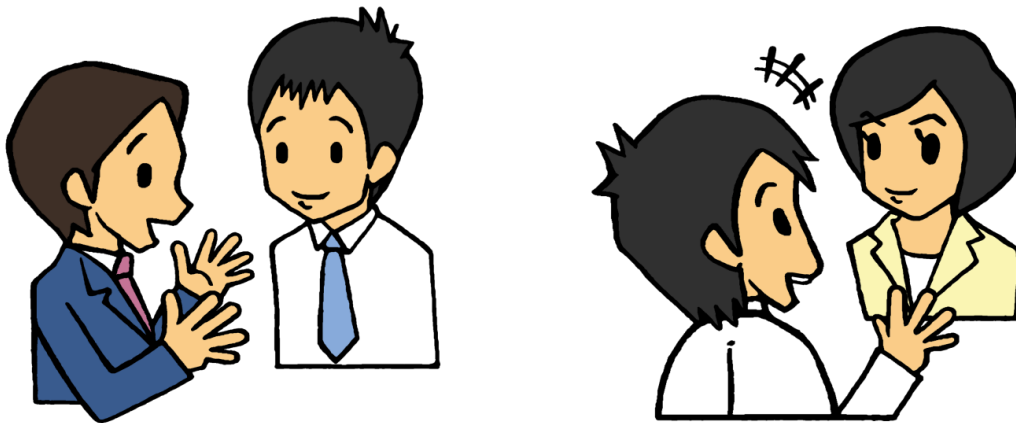
- 手順1 印刷機の近くに、掲示スペースを用意する (印刷しながら読めるところに)。
- 手順2 全教員が共通の話題として取り上げられそうな緩やかなテーマの記事 (最新の教育情報, 公開授業の案内・報告, 生徒の活躍など) を掲示する。記事は、新聞記事や指導案, 教材プリントを拡大したもので構わない。
- 手順3 印刷が完了するまでの間に読み, その場にいた先生との話のネタにする。
- 手順4 自分の席に戻ってから, 隣の教員との話のネタにする。

【例2】自分の考えの伝え方を工夫する

ポイント① 共有

ポイント④ 言語化

- **自分の考えを述べる時は、「Iメッセージ」（主語＝「私」）で伝える**
 - 特に相手の価値観と反する考えを伝える時は、一般論のように話してしまうと、ぎくしゃくした雰囲気になってしまいます。そこで、「私は～」という話し方をすることで、お互いの考えを聞き合う雰囲気を保つことができます。
- **自分の経験をもとに、自分の考えを述べる**
 - 自分の経験は他者から否定されない事実であるため、安心して話すことができます。
 - 自分の経験は、相手にとって驚きになることもあります。
- **互いの価値観を尊重する**
 - 自分の考えを一方向的に話したり、説得して相手の価値観を変えようとするのではなく、まずは相手の考えをしっかりと聞くことを大切にします。
 - どちらの考えが正しいという判断をするのではなく、自分の考えとの違いに気づくこと、そしてその違いの背景を知ることが大切です。その積み重ねにより、自分の考えをさらに発展させたり、新しい考えを生み出したりすることができます。



4 県内の実践事例

(1) 管理職の積極的な支援による OJT

～岩手県立遠野高等学校～



職員数 36 名

生徒数 452 名（普通科 12 学級）

（平成 25 年 5 月 1 日現在）

OJT 推進者 = 副校長

前年度の分掌主任の多くが転出したため、新任の分掌主任には本来の職務を優先して取り組んでもらい、OJT の取組に関しては、副校長が推進者となって計画・運営しました。

共有した目標 = 「わかる授業」への改善

生徒や教員の実態を踏まえて、遠野高等学校の教員に必要とされる授業力向上の観点を掲げました。また、生徒の授業評価アンケートを活用して改善を図りました。

遠野高等学校の実施の流れ

月	実 施 内 容
4	<input type="checkbox"/> OJT についての概要確認 ★2
5	<input type="checkbox"/> 小集団の編成① ★3 <input type="checkbox"/> 小集団による授業参観① ★1・4
6	<input type="checkbox"/> 生徒による授業評価アンケート① ★5 <input type="checkbox"/> 校内研修会 ★6
7	
8	
9	<input type="checkbox"/> ワークショップ型全体研修会 ★7
10	<input type="checkbox"/> 小集団の編成② ★3 <input type="checkbox"/> 小集団による授業参観② ★1・4
11	
12	<input type="checkbox"/> 生徒による授業評価アンケート② ★5
1	
2	<input type="checkbox"/> 今年度の OJT の総括、全体テーマと自己課題の確認
3	

★印は、次ページ以降の「ポイント」で詳しく紹介しています

ポイント

★ 1 管理職の積極的な支援

ポイント② 振り返り

ポイント③ 小集団活動

- 旗振り役がいなければ、教員が円滑に活動することができないと考え、管理職は「声をかける」「顔を出す」「意識を持ってもらう」ことを率先して実践しました。
- 管理職は、授業を見せ合う場や振り返りの場には直接顔をだし、必要に応じて指導助言を行いました。特に、若手教員がベテラン教員に意見を述べたり、異なった教科の教員に対して意見を述べたりする際は躊躇する傾向があるため、管理職が積極的に教員の活動に入り、改善の意見を引き出すようにしました。
- 職員朝会時に配付する連絡用紙の一番下に「今週も OJT よろしくお願ひします」と一言添えるなどして、常に意識する仕掛けを日々の職務の中に取り入れました。
- 自発的な教え合い学び合いや情報の共有をしてもらうために、会議を精選し、時間の確保に努めました。

★ 2 OJT についての概要確認 ～目標や実施方法の共有～

ポイント① 共有

ポイント④ 言語化

① なぜ OJT なのか？

- OJT による授業力向上の取組を推進する理由の一つとして、「地域から遠野高校を選んでもらうために、授業力向上に取り組んでいることを対外的にアピールするチャンス」も掲げました。

② 1年間のスケジュールと進め方

- 生徒による授業評価アンケートや全体研修会の実施時期や主な内容も示しました。

③ 授業力向上の観点

- 年度初めに目標として「わかる授業」を掲げ、学校経営計画にも盛り込みました。
- 必要とされる授業力向上の観点について、学校の実情に即して以下のように掲げました。

遠野高等学校 授業力向上の観点

授業力向上の観点	具体的観点例
(1) 授業展開の仕方	発問の工夫, 発言への対応, 指示の仕方, 板書の計画的活用, 生徒の学習活動 など
(2) クラスマネジメント	学びのルールの確立, 統率力, 学習集団づくり, 人間関係への配慮 など
(3) 教材の開発と活用	I C Tの活用, 教材開発, ノートの活用, プリントの活用, 実験実習の工夫 など
(4) 授業の分析・評価	観点別評価と評価規準の設定, つまずきやすい生徒への手立て など

4 県内の実践事例

④ 授業力向上の判断基準

- また、遠野高校では、授業力が向上したかどうかの判断基準として、「授業力向上＝生徒が先生の授業をよくわかるとする割合が 80%以上」という基準を設け、年 2 回の生徒による授業評価アンケートを活用して振り返り、評価できるようにしました。

⑤ 気軽な授業参観のルール

- 授業参観を気軽に行うことができるように、教員間で事前に一言断るだけで、お互いに自由に授業参観ができるものとなりました。

⑥ 記録の残し方

- 小集団ごとに、授業見学の振り返りや話し合いの内容を授業見学シートとして残すことにしました。
- 各教員で課題を設定し、改善までの過程を実践シートとして残すことにしました。
- 授業実践において作成・記入した指導案、学習プリント、授業見学シートなどを取りためておくことにしました。

(→授業見学シートの例は 29・30 ページ)

★ 3 小集団の編成 ～前半は異なった教科で、後半は同じ教科で～

ポイント③ 小集団活動

① 編成方法

- 前半は、OJT 推進者（副校長）が小集団のメンバーを決めました。異なった教科担当者で、できるだけベテラン・中堅・若手を組み合わせるように構成しました（7～8名の小集団を 4 つ）。人数と年齢構成を崩さない範囲であればメンバーの交換は可としました。
- 後半は、教科の専門的な内容まで振り返りができるように、同じ教科ごとの小集団を構成しました。
- 小集団ごとの代表者は、小集団内で決めました。

② 活動内容

- 代表者が中心となって、2 週間に 1 回以上、お互いの授業を見せ合うことにしました。
- お互いが参観できるように工夫し、全員が集まらなくても継続しました。
- 参観後は、必ず集まって授業見学シートを作成し、月ごとに OJT 推進者（副校長）に提出しました。
- 前半は、各小集団に授業力向上の観点を一つずつ割り当て、その観点を小集団内の共通テーマとして追求しました。
- 後半は、小集団ごとのテーマは設定せず、各教員が自分の課題を明示し、参観する観点を限定して行いました。

★ 4 小集団の授業見学 ～授業見学シートの記入，短時間の振り返り～

ポイント② 振り返り

ポイント③ 小集団活動

ポイント④ 言語化

① 授業見学シート

- 授業者は，単元名，本時のねらい，授業展開などを記入した授業見学シートをあらかじめ作成し，小集団のメンバーに配付します。
- 参観者は，授業見学シートをもとに授業を参観し，メモをとります。
- 授業後の振り返りの際に，授業見学シートにメモしたことを活用します。
- 最終的には，小集団の代表が整理し，OJT 推進者（副校長）に提出します。

② 短時間の振り返り

- 昼休みなどに授業者と参観者が集まり，必ず授業の振り返りを行うようにしています。
- 時間配分の例は，以下の通りです。

ア 授業者から本時の意図の説明	【5分】
イ 参観者からの観点に沿った感想や改善提案	【10分】
ウ 授業者によるまとめ	【5分】 <u>合計 20分</u>

★ 5 生徒による授業評価アンケートの実施 ～マークシートの活用～

ポイント② 振り返り

- 授業評価は5つの設問で行い，マークシートで回答してもらいました。
 - ア 授業の目標・学習内容を明確にしながら授業を進めている
 - イ 授業の指示や板書，説明は分かりやすい
 - ウ つまづきやすいところや疑問に配慮した授業を行っている
 - エ 準備や工夫がなされた授業を行っている
 - オ 授業を受けることで，学力・技能の向上が実感できる
- 評価基準は4段階（そう思わない，どちらかといえばそう思わない，どちらかといえばそう思う，そう思う）で行いました。
- そのほか，授業に対する自己評価や，授業についての記述アンケート（要望，改善してほしいこと，ぜひ続けて欲しいこと）も行いました。

★ 6 校内研修会の実施 ～外部講師による研修でさらなる共通理解～

ポイント① 共有

ポイント② 振り返り

- 県立総合教育センターの研修指導主事による研修会を行い，「わかる授業のポイント」「授業の振り返り方法」などについて，さらなる共通理解を図りました。
- その際，県内の他校の実践事例の映像も見て，具体的な取組の雰囲気をつかんでもらえるようにしました。

4 県内の実践事例

★7 ワークショップ型全体研究会の実施 ～録画・編集した自校教員の授業をもとに～

ポイント① 共有

ポイント② 振り返り

ポイント③ 小集団活動

ポイント④ 言語化

① 自校教員の授業を録画・編集し、全教員で視聴

- 録画した授業について、本時のねらいや授業の観点に関わる部分を抽出して 20 分程度に編集したものを一斉に視聴した上で、ワークショップ型研究会（意見の交換を主とする研究会）を実施しました。
- 先生方の気づきを促すために、授業者からの事前の詳しい説明は行わず、直接視聴して感じたことや気になったことをワークショップで話し合ってもらうようにしました。

② 具体的な流れ

- ア 本日の研修会の目的の確認 【5分】
- イ 授業者より（教材観・指導観・生徒観，授業者の自己課題） 【5分】
- ウ 授業視聴 【20分】
- エ ワークショップ（小集団を2つに分けたグループで実施） 【25分】
- オ 各グループの発表 【25分】
- カ 講評・振り返り 【10分】 合計 90分

③ ワークショップの実施方法

- 各グループで「進行係」「記録・マッピング係」「発表者」を決めます。
- 授業視聴前に、全員に付箋を3種類配付します。
 - ・黄色：自分が所属するグループのテーマに関して
 - ・桃色：授業者の自己課題に関して
 - ・青色：その他自分が気づいたことに関して} 「なるほどと思ったこと」
「これは課題だと思ったこと」
を視聴しながら記入します。
- 1枚の付箋には1つのことを端的に大きく記入します。
- 記入した付箋は、一人一人に意図を発表してもらいながら、模造紙の適当だと思われる場所に貼ります。
- 模造紙は、生徒と教師の視点から授業を概観できるように、横軸に「生徒」と「教師」、縦軸に「成果（+）」と「課題（-）」という座標軸を設けました。
- 類似した内容についてはグループ化して小見出しをつけたり、矢印で結びつけて関係を整理します。
- 最後に全員で、本時の授業の良かったところや課題、改善策などについて確認し、発表者に託します。

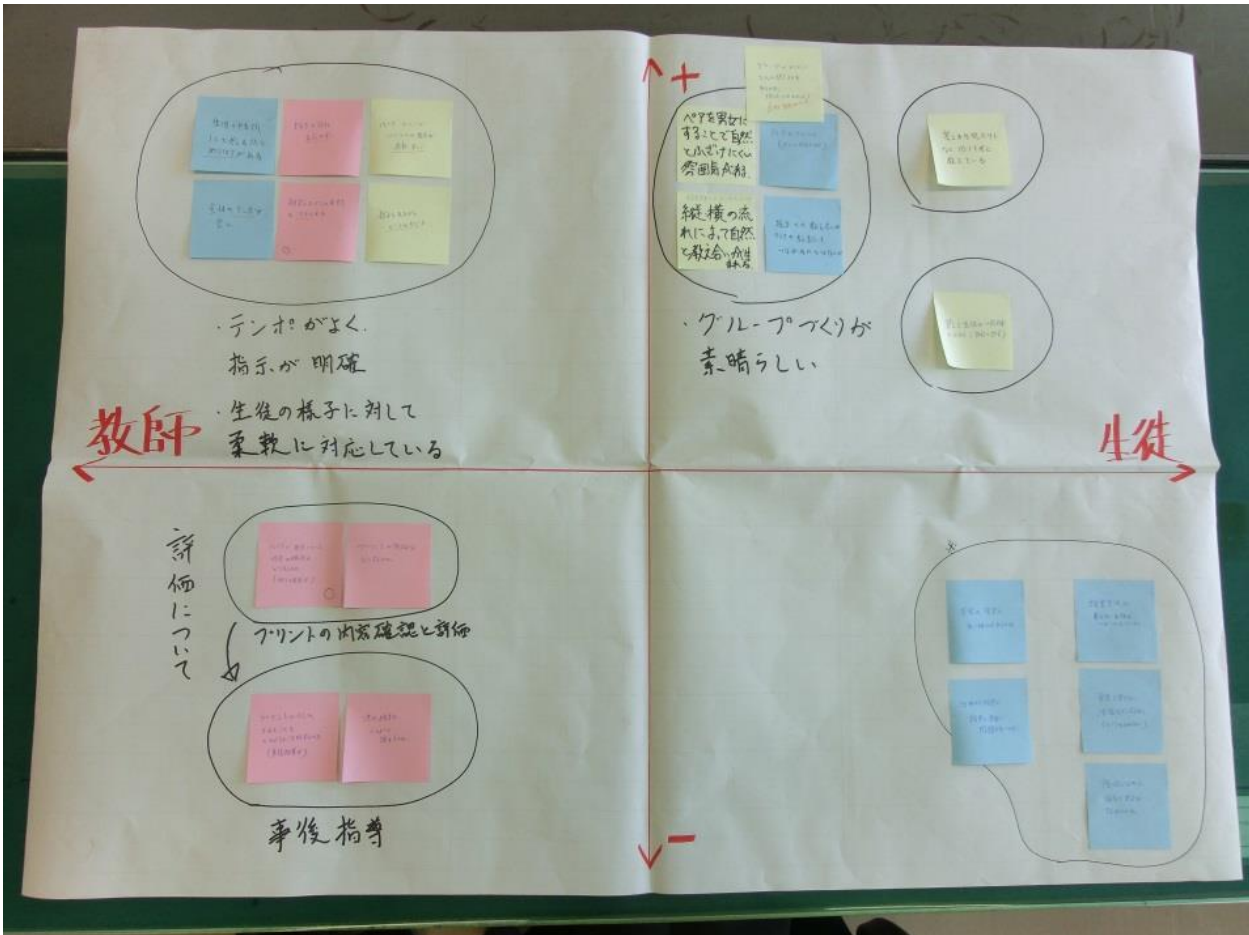
4 県内の実践事例



録画した授業を全教員で視聴



3～4名ごとにワークショップ



最後に模造紙をもとに全体で発表

4 県内の実践事例

遠野高等学校 授業見学シート (前半：小集団ごとにテーマ設定)

授 業 見 学 シ ー ト		〇〇 月 〇〇 日(〇) 〇 校時	
		項 目	
グループテーマ	授業展開の仕方		
授業担当者	〇 〇 〇 〇	科目	国語総合
		クラス	〇 年 〇 組
単元名	詩「激動するもの」		
本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・表現上の特徴についての理解を深める。 ・「激動するもの」についてのイメージを膨らませる。 		
授業展開	<ul style="list-style-type: none"> ・全文を音読する。 ・印象に残ったことがらを出し合う。(グループ討議) ・グループ討議の内容を発表する。 ・各行の結び「のだ」の働きを考える。 ・「さういふ〇〇」と「さういふもの」との意味の上での関係性を理解する。 		
板書等	<ul style="list-style-type: none"> ・高村光太郎について ・各グループの発表内容 		
授業力のポイント (見学者感想)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ討議による新しい発見があった。 ・ワークショップなど、生徒に考えさせる授業であった。 ・ワークショップは45分間では難しい。 ・指示が曖昧で生徒が戸惑う場面があった。進行役を決めたり、指示を具体的にするなど、改善が必要。 ・「印象に残ったこと」「気づいたこと」「疑問に思ったこと」を【内容】と【表現】に分ける作業は少し難しいのではないかと感じた。 		
授業者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・授業展開の仕方を意識したつもりであったが、計画通りに進まず、予定の内容を終えることができなかった。 ・次時の課題をはっきりさせ、宿題としたかったがまとめられなかった。 ・ワークショップは初の試みであったが、もっと工夫しなくては十分な成果を得られないと感じた。 		
参考資料等			
授業参観者	校長, 副校長, 〇〇, 〇〇, 〇〇, 〇〇		

遠野高等学校 授業見学シート (後半：教員個人の課題をもとにテーマ設定)

授 業 見 学 シ ー ト		〇〇 月 〇〇 日(〇) 〇 校時	
		項 目	
本時のテーマ	①授業展開の仕方(板書の計画的活用, 発問, 理解のさせ方の工夫) ②生徒理解(ルールの確立, 生徒の基礎能力の把握) ③教材の開発と解釈・活用(教科書の活用, 実習の工夫)		
授業担当者 : 〇 〇 〇 〇	科目 : 美術 I	クラス : 〇 年 〇 組	
単元名	彫刻をつくる		
本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 木彫の手順を理解する。 木の性質, 道具の扱いについて理解し, 慣れる。 		
授業展開	<p>【1校時】</p> <ol style="list-style-type: none"> 木彫の手順の説明, 本時の目標の確認 木の性質, 用具の扱い方, 注意事項について説明(実演) 用具の準備 作業 <p>(休憩)</p> <p>【2校時】</p> <ol style="list-style-type: none"> 後始末 本時内容のまとめ 		
板書等	<ul style="list-style-type: none"> 目標, 手順などをカードや板書で示す。 本時の活動の留意点などを示す。 		
授業力のポイント (見学者感想)	<ul style="list-style-type: none"> 失敗例を示すのは良い。 生徒同士が向き合う机での配置で, 会話ができて良い。 両刃のこぎりを知っている生徒がいたが, 発言を取り上げなかったのが残念。 板書が支援学校でも取り入れている方法。手順が分かり良い。 のみの作業を立ててやる生徒, 座ってやる生徒, やりづらそうだった。安全指導の確認が必要だった。 板書が計画的になされており良い。 		
授業者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> 前の時間は金剛力士像とダヴィデ像の鑑賞を行い, その延長線上にある課題であることを意識させた。 遠野は野鳥が豊富なので, 興味を持ってもらうため, バードカービングの題材にした。 作業で失敗が予想されるところをあえて実演したところが, 今回の工夫点である。 今回は生徒の実態把握とそれに沿っての目標設定に主眼を置いた。 		
改善策の 提案や課題	<ul style="list-style-type: none"> 全体と個々の指導の仕方に課題あり。生徒同士の学びも検討(良い生徒のものをシェアリングするなど)。 		
授業参観者	校長, 副校長, 〇〇, 〇〇, 〇〇, 〇〇		

(2) 小集団の機動性を生かした OJT

～岩手県立花北青雲高等学校～



職員数 45 名

生徒数 482 名

(情報工学科 3 学級, ビジネス情報科 6 学級,
総合生活科 3 学級)

(平成 25 年 5 月 1 日現在)

OJT 推進者 = 教務主任

全教員への連絡調整や提案, 指示のほか, 各小集団における授業公開と振り返りにも参加し, 進め方などを助言しています。

教務主任自身も, 一つの小集団の一員であり, 他の教員同様に授業を公開し, 他の教員から改善策を真摯に受け止めるなど, 取組の模範となっています。

共有した目標 = 授業参観後の「振り返り」の実施

各教員の実践の振り返りに, 小集団のメンバーが関わるきっかけを設けることで, より深い振り返りを促しています。また, 参観者が改善策を提案することで, 小集団が個の授業力向上に直接関わり, 集団が個を育てる取組にしています。

花北青雲高等学校の実施の流れ

月	実 施 内 容
4	<input type="checkbox"/> 校内授業研修についての概要確認 ★1 <input type="checkbox"/> 小集団の編成① ★2
5	<input type="checkbox"/> 小集団の授業参観・振り返り ★3
6	
7	
8	
9	
10	<input type="checkbox"/> 取組状況の共有 ★4
11	
12	<input type="checkbox"/> 校内研修会 ★5
1	
2	<input type="checkbox"/> 今年度の校内授業研修についての振り返り
3	

★印は, 次ページ以降の「ポイント」で詳しく紹介しています

ポイント

★ 1 校内授業研修についての概要確認 ～ねらいや実施方法の共有～

ポイント① 共有

① ねらい

- 年度初めに、研修のねらいは「グループ内の一人一人が一回ずつ公開授業を行い、相互の評価や分析などを通じて、授業力向上及び授業改善を推進する」であることを確認しました。特に重点を置いたのが「相互の評価や分析」です。
- OJT という表現は使わず、「校内授業研修」という表現で統一しました。

② 公開授業の実施前、実施後の取組の明確化

- いつ、誰が、何をすればよいかを簡単に示し、戸惑うことのないようにしました。

いつ	誰が	何をするか
参 観 前	小集団 リーダー	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内の全員が参加できる曜日と時間を決めます。必要に応じて、時間割変更を教務に依頼します。 ・具体的に誰がいつ行うかを計画し、職員室内の連絡板に記入して、全教員に知らせます。
	授業者	<ul style="list-style-type: none"> ・参観者に配付するための「授業プラン」「授業参観チェックシート」と資料を準備します。
参 観 後	参観者	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業参観チェックシート」により、感想や助言を授業者に提供します。
	授業者	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業プラン」と「授業参観チェックシート」の写しを教務部に提出します。
	教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・課題となる事柄を抽出し、全体に情報提供します。

③ 自主性を重んじた授業参観シートの作成

- 事前に参観ポイント（視点）は、必ず二つ示すことを統一して行いました。
- 岩手県立盛岡第三高等学校で使用している授業参観シートをアレンジして学校独自のものを作成し、全教員に示しました。ただし、この雛形に縛られることなく、授業者が使いやすい様式で作成するものとし、負担感の軽減を図りました。
- 基本的に指導案の作成は求めず、授業参観チェックシートに授業で何をしたいのかを記すことにしました。

(→授業プランと授業参観チェックシートの例は 35・36 ページ)

④ 参観する上でのルールの確認

- 年間を通じて授業研修に努めることができるように、年度初めに参観のルールを確認しました。
 - ・自分の所属グループ以外の授業を参観したい場合、事前に、授業者に意向を伝えます。
 - ・参観時間は 10 分程度でも構わないこととします。

4 県内の実践事例

★ 2 小集団の編成 ～異なった教科の担当者4名程度で編成～

ポイント③ 小集団活動

- OJT 推進者（教務主任）が小集団のメンバーとリーダーを決めました。
- 1つの小集団につき4名程度で編成し、機動的かつ機能的に動けるようにしました。
- 異なった教科の担当で小集団を編成しました。ただし、前年度とは組み合わせが異なるように、配慮しました。

★ 3 小集団の振り返り ～授業時間内で実施～

ポイント① 共有

ポイント② 振り返り

ポイント③ 小集団活動

ポイント④ 言語化

① 振り返りの場の設定

- 原則として、授業を参観した日の授業時間中（小集団のメンバーの空き時間）か放課後に実施しました。
- 振り返りはワークショップ形式で行いました。
- 授業公開日に出張などでメンバーが欠けていても、授業参観と振り返りは行いました。
- 少人数で行うため、全員に発言の時間が確保され、主体的に振り返ることができました。

② 進め方と時間配分

- | | |
|-------------------------------|--------|
| ア 進め方の説明（進行役） | 【2分】 |
| イ 授業者が授業の意図を説明 | 【5分】 |
| ウ ワークショップ（成果・課題を挙げ、改善の方向性を探る） | 【20分】 |
| エ 小集団内での共有 | 【5分】 |
| オ 授業者本人の言葉で、成果・課題・改善策をまとめる | 【5分】 |
| カ 助言（助言者がいる場合） | 【3分】 |
| | 合計 40分 |



小集団のメンバーが授業を参観



授業の空き時間に集まれるメンバーでワークショップを実施

★4 取組状況の共有 ～ワークショップの模造紙を活用～

ポイント① 共有 ポイント② 振り返り

- 各小集団で行われた振り返りの結果，見出された成果や課題，改善策について，全教員で共有するようにしました。
- 付箋によるワークショップで使用した模造紙を撮影・印刷し，全教員に配付することで，各小集団が振り返った結果を共有する工夫をしました。
- ワークショップの際は，模造紙を撮影したものを印刷することを念頭に置いて，付箋や模造紙に記入する文字は「太く」「濃く」「はっきり」書くことを促しておきました。

〇〇〇〇先生（グループ〇） 2年選択「プログラミング」バブルソート 〇月〇日

視点1：既習事項をもとに，生徒自身に考えさせる学習活動がうまくできているか。

視点2：発問のタイミングや内容が適切か。

	視点1	視点2	その他
+	<ul style="list-style-type: none"> 目的的内容 板書 	<ul style="list-style-type: none"> 3択 発問の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 導入 ポイントおぼろ まとめ
-	<ul style="list-style-type: none"> 時間・ヒントモウツシ 	<ul style="list-style-type: none"> 3択 	<ul style="list-style-type: none"> 説明のスピード 時間配分
改善	<p>演習時間の確保</p>	<p>ヒントを与えすぎない 生徒の自由発想</p>	<p>説明のスピード ポイントをゆくり 強調</p>

ワークショップで作成した模造紙を印刷，配付し，改善策を全教員で共有

4 県内の実践事例

花北青雲高等学校 授業公開用授業プランシート

授業公開用授業プラン

実施日時	平成 ○○ 年 ○○ 月 ○○ 日 (○) ○ 校時		
授業担当者	○ ○ ○ ○		
教科・科目	生物Ⅱ (旧課程)	対象クラス	○ 年 ○ 組 (○○ 名)
単元等	第3編 第1章 第1節 「生物界の変遷」		
本時のねらいやポイント			
<ul style="list-style-type: none"> ・地質時代と代表的な生物について、関連性を理解できる。 ・各時代の大きな特徴を理解できる。 			
関心・意欲等を持たせるための工夫			
<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトの活用により、写真や図を多く用いて視覚的な刺激を多くする。 ・プレゼンテーション形式なので、従来の学習プリントよりは文字数が大きく減少し、要点が分かりやすくなる。 			
思考力・判断力をつけさせるための工夫			
<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの際、最初から答となるような内容を表示せず、質疑応答や、話し合いの後で表示するようアニメーションを設定する。 			
表現力や技能をつけさせるための工夫			
<ul style="list-style-type: none"> ・理科室は、話し合いをしやすい座席になっているので、プレゼンテーションの途中に、話し合いの時間を設け、互いに述べ合うようにする。 			
基本的な知識等を定着させたり、理解を深めさせるための工夫			
<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション中は、話を聞くこと、話し合うことの2点だけに集中させる。 ・プレゼンテーション後に資料を配付し、重要事項の部分に蛍光ペン等でマーキングさせる。この際、他者と重要事項を確認し、話し合うことを認める。 			
その他の工夫			
<ul style="list-style-type: none"> ・簡易電子黒板として使えるよう、プレゼンテーション中に赤ラインを描写できるように、システムを構築した。 			

花北青雲高等学校 授業参観チェックシート

授業参観チェックシート

参観者： _____

1 ここを見てほしい！（授業者： ○ ○ ○ ○ ）

具体的客観的事実（生徒の行動，発言，反応，表情）に基づいたコメントをお願いします。

1	<p>考えさせる学習活動がうまくできているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の誤りを生かして，ポイントを確認していた。 ・図で分かりやすく説明していた。 ・板書を工夫しており，板書を見ながら考えることができた。 ・時間内に作業が終わっていない生徒が多い。ヒントや考える時間がもっと必要。
---	---

2	<p>発問のタイミングや内容が適切か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒を傷つけない発問をしていた。 ・詰まった生徒に答えられるところまで答えさせていた。 ・前の発問に答えられなかった生徒に，リベンジの機会を与えていた。 ・発問の回答に選択肢を設けると，生徒の発想に枠を作ってしまうのではないか。
---	--

その他のコメント	
<ul style="list-style-type: none"> ・導入時の前時の復習は，流れるように短時間で終えていて良かった。 ・まとめで本時の学習内容の復習ができていた。 ・早口で，説明が少し早かった。 	

2 参観のポイント・視点（一般）

項目	具体例		評価				
			A	B	C	D	E
授業構想	1	本時の目標は，学習指導要領に則るとともに，生徒の実態に応じ適切である。	(A)	B	C	D	E
	2	必要に応じたプリントや資料等を用意している。	(A)	B	C	D	E
	3	グループ活動等，指導形態の工夫をしたり，視聴覚機器の利用等，指導方法を工夫している。	(A)	B	C	D	E
板書	4	内容が整理され，流れがつかみやすい構成である。	A	(B)	C	D	E
	5	紙板書や色チョーク等の使い方が工夫されている。	A	(B)	C	D	E
発問	6	全員に対して，分かりやすい発問・指示をしている。	A	(B)	C	D	E
	7	多様な考えを引き出す発問になっている。	(A)	B	C	D	E
対応	8	机間指導等を行い，個に応じた適切な指導・助言をしている。	(A)	B	C	D	E
	9	生徒の学習状況を把握し，必要に応じて計画を修正して指導している。	A	(B)	C	D	E
	10	生徒の学習状況を把握し，思考や活動に適切な時間をとっている。	A	B	(C)	D	E
	11	ノート指導を適切に行っている。	A	B	(C)	D	E
	12	家庭学習についての指示（内容・手順等）を具体的に行っている。	A	B	(C)	D	E

A：大いに当てはまる B：当てはまる C：当てはまらない D：まったく当てはまらない E：該当なし

(3) 教育実習生への指導を活用した OJT

～岩手県立盛岡第二高等学校～



職員数 46 名

生徒数 599 名 (普通科 15 学級)

(平成 25 年 5 月 1 日現在)

ポイント

★ 1 既存の職務を教科団（小集団）活動の活性化のきっかけに

ポイント① 共有

ポイント③ 小集団活動

- 教育実習生への指導について、指導教官だけではなく、同じ教科の全教員で行う仕組みを作ることで、指導教官の負担感の軽減の他、教科内で関わり合う機会の増加につなげました。

★ 2 教育実習生のゴール像に基づいた師範授業

ポイント① 共有

ポイント④ 言語化

- あらかじめ、教科会議を開き、各教員から「教育実習生に実習期間中に何ができるようになって欲しいか」を挙げてもらいました。それをもとに、教育実習生のゴール像を整理し、教育実習生に提示しました。各教員は、このゴール像を意識して師範授業を行いました。

★ 3 教育実習生への師範授業も全教員に公開

ポイント① 共有

- 教育実習生への師範授業を、該当教科のみならず全教員への公開授業としました。
- 教育実習生のために作成した授業参観シートを全教員に配付し、参観者に記入してもらいました。

★ 4 教育実習生の意見による刺激

ポイント① 共有

ポイント② 振り返り

- 同じ職場の教員は、ほめ言葉を寄せることが多いですが、教育実習生は比較的厳しい意見を書く傾向があります。現場の教員同士による本音の意見交換がしにくい状況においては、教育実習生の意見はとても貴重で、振り返りのきっかけにもなります。

盛岡第二高等学校 授業参観シート（師範授業用）

授業参観シート（師範授業用）

記録者 ○ ○ ○ ○ 科目 日本史B クラス ○年 ○組 場所 ○○室 日時 ○月 ○日（○） ○校時 授業者 ○ ○ ○ ○

★授業参観のポイント

①本時のねらい

江戸初期の外交について、17世紀初頭には積極的に朱印船貿易が行われ、日本人の海外渡航も盛んだったが、しだいに幕府は鎖国体制を構築していくことになった。その背景や目的を理解する。

②本時の見どころ

導入で、ユネスコの世界記憶遺産に登録されることになった慶長遣欧使節関係資料を紹介して、江戸初期の外交についての関心を高めさせる。また、支倉常長が帰国した頃の幕府の対外政策を想起させながら、常長が置かれた状況を考えさせる。

★感じたこと

※参考までに、授業を見る視点を示しました。特に感じたところを中心に記入してください。

 本時のねらいに沿った授業であったか

なぜ支倉常長が帰ってきた時に禁教・鎖国になっていたのかという背景が少し薄かったように感じました。

 本時の見どころは効果的な指導であったか

支倉常長を軸にして周辺の状況をとらえさせることで、印象に残りやすかったと思います。

 声量・話す速度は適切であったか

強調したいところをゆっくり話していました。

 言語活動は効果的に行われていたか

新聞を読み取らせ、興味を引くところを穴埋めにするので、効果が見られたと思いました。
考えて書くという訓練は本当に必要だと思いました。

 板書・ノートは思考を助け、振り返ることができる内容であったか 資料・プリント・教具は効果的に活用されていたか

様々な資料を関連付けて使うことで、多くの情報を得ることができていたと思います。
新聞記事を活用して、既習事項の復習、知識の定着を図っていたのが、とても参考になりました。

 生徒の意欲的な取組は見られたか 生徒の評価は適切であったか 生徒とのコミュニケーションは図られていたか

発問させることは度々あったが、生徒とコミュニケーションをとったところは少ないような気がしました。
生徒の発言の声量が小さいのが残念でした。

 時間配分（導入・展開・終末など）は適切であったか

考えさせることで時間がかかっていましたが、配分は適切だったと思います。

 その他

先生がおっしゃっていたことをメモしている生徒も見られました。

※記入したらコピーをとり、授業者へ渡してください。原本は自分で保管してください。

(4) 定期考査期間中に OJT のきっかけづくり

～岩手県立盛岡第二高等学校～



ポイント

★ 1 身近な教員との教え合い学び合い

ポイント① 共有

ポイント③ 小集団活動

- 職員室で近くに座る教員の考えを知り、日常的な対話を生み出すため、職員室で行いました。
- 日頃、授業実践をするにあたり、意識していること（今回は「授業を通して生徒に高めて欲しい力」）を柱に、教え合い学び合いをしてみました。

★ 2 発表と質問のルール設定

ポイント③ 小集団活動

ポイント④ 言語化

- 3人グループを作り、「自分の考えの発表」（1人あたり2分）と「それに対する質問」（1人の発表につき3分）を行いました。
 - 発表と質問にはルールを設定し、時間内で効率よく進められるようにしました。
 - ・ 発表のポイント …まず結論から話す
 - ・ 質問のポイント …気づきを促す（なぜ～なのか？）
- 指導（～すべき）にならないように

★ 3 限られた時間で実施するために「予告」と「時間計測」

ポイント① 共有

ポイント② 振り返り

ポイント③ 小集団活動

ポイント④ 言語化

- 教え合い学び合いを限られた時間で円滑に進行するために、実施日前にテーマ（今回は「授業を通して生徒に高めて欲しい力」）を予告し、自分の考えを整理しておいてもらいました。
- 自分の考えの整理、発表、質問の際は、残り 30 秒になったらベルを鳴らし、時間内で終わることを意識してもらいました。

i) 自分の考えの整理 …シートの「私」欄に記入	【5分】	説明・指示の 時間として 5分	
ii) Aさんの発表（2分）+ Aさんへの質問（3分）	【5分】		
iii) Bさんの発表（2分）+ Bさんへの質問（3分）	【5分】		
iv) Cさんの発表（2分）+ Cさんへの質問（3分）	【5分】		
v) 振り返り …大切だと思ったことを整理する	【5分】		合計 30分

盛岡第二高等学校 教え合い学び合いシート

教え合い学び合いシート

【1】 これまでの授業を振り返り，以下の項目に答えながら整理します。

【2】 記入内容を小集団のメンバー内で発表します。

視点 \ 氏名	私	〇〇先生	〇〇先生
授業を通して生徒に高めて欲しい力	・資料を活用する能力	・歴史的思考力	・論理的な思考力
実践していること	・新聞記事のコピーを配布し，本文・図に関して発問	・女性に関する史料を用いた授業	・問題を考えさせるための説明
実践の成果	・自主的に資料集を開いたり，アンダーラインをひいたりするようになった	・江戸時代の女性の立場を理解することができた	・解答上の間違いが何かを考えるようになった生徒がいる
実践の課題	・用語だけ覚えればよいと考えてしまう生徒がいる	・現代的な課題と結びつけて考察できるようにしたい	・教師の説明を待つ姿勢がまだ見られる（答えが分かればよいという考え）
改善策	・評価の方法を工夫する	・身近な問題を意識させる	・生徒同士で問題を解かせる（説明し合う）

【3】 自分の考えを発表して，またメンバーの考えを聞いて学んだことを整理します。

- ・他教科でも，生徒の意欲をどのように引き出すかで苦労していることが分かった。
- ・先生方の授業を参観する際，思考力，判断力，表現力をどのように育てようとしているか，注目したいと思った。
- ・女子生徒の特性を活かした題材，教材を取り入れてみたい。

参考文献

- 浅野良一編 (2009), 『学校における OJT の効果的な進め方』, 教育開発研究所
- 安彦忠彦 (2009), 「OJT は私の『個人主義』で進めようー教師の研修の中心は常に OJT である!ー」, 『学校マネジメント』, 11月号, 明治図書出版, pp. 36-37
- 茨城県教育研修センター (2013), 『次世代の教職員を育てるために～OJT の進め方～』
- 岩手県立総合教育センター (2008), 『校内授業研究の進め方ガイドブックー平成 19 年度版ー』
- 岩手県立総合教育センター (2009), 『校内授業研究の進め方ガイドブックⅡ』
- 岩手県立総合教育センター (2013), 『校内授業研究の進め方ガイドブックⅢ』
- 上田利男 (1978), 『小集団活動ー理論と実践マニュアルー』, 総合労働研究所
- 太田肇 (2004), 『ホンネで動かす組織論』, 筑摩書房
- 金井壽宏・楠見孝編 (2012), 『実践知 エキスパートの知性』, 有斐閣
- 神奈川県立総合教育センター (2008), 『学校内人材育成 (OJT) 実践のためのガイドブック』
- 川原慎也 (2012), 『これだけ! PDCA』, すばる舎リンケージ
- 木原俊行 (2011), 「今求められる校内研修の企画・運営上の工夫ー「専門的な学習共同体」の成立と発展を目指してー」, 『中等教育資料』, ぎょうせい, 第 60 巻第 12 号, pp. 10-13
- 教職員の人材育成に関する検討委員会 (2005), 『教職員の人材育成に関する検討委員会 報告』, 岩手県
- 國分康孝・國分久子 (2005), 『教師のコミュニケーション事典』, 図書文化
- 佐久間重紀 (2013), 「元気が出る校内研修を創るー授業改善を焦点にした校内研修ー」, 『月刊高校教育』, 2013 年 6 月号, pp. 22-25
- 佐藤学・和井田節子・草川剛人・浜崎美保 (2013), 『授業と学びの大改革 「学びの共同体」で変わる! 高校の授業』, 明治図書
- 佐野正之 (2010), 「教員研修・養成におけるアクション・リサーチ」, 『教育デザイン研究』, 創刊号, pp. 103-112
- 坂本篤史 (2007), 「現職教師は授業経験から如何に学ぶか」, 『教育心理学研究』, 第 55 巻, pp. 584-596
- 小集団研究所編 (1986), 『小集団活動のキーワード』, 人間の科学社
- 田中耕治編 (2007), 『よくわかる授業論』, ミネルヴァ書房
- 中央教育審議会 (2013), 『教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について (答申)』
- 寺澤弘忠・寺澤典子 (2009), 『OJT の基本 教え, 教えられながら共に学び共に育つ』, PHP 研究所
- 東京都教育委員会 (2010), 『OJT ガイドラインー学校における OJT の実践ー【改訂版】』
- 長崎県教育センター (2013), 『校内研修のてびき【高等学校版】』
- 中原淳 (2011), 『知がめぐり, 人がつながる場のデザイン』, 英治出版
- 中原淳編 (2006), 『企業内人材育成入門』, ダイヤモンド社
- 中原淳・金井壽宏 (2010) 『リフレクティブ・マネジャー』, 光文社

- 中原淳・長岡健（2009），『ダイアログ 対話する組織』，ダイヤモンド社
- 西岡加名恵・石井英真・川地亜弥子・北原琢也（2013），『教職実践演習ワークブック ポートフォリオで教師力アップ』，ミネルヴァ書房
- 日本教育方法学会編（2004），『現代教育方法事典』，図書文化社
- 日本能率協会マネジメントセンター編（2013），『仕事が早くなる！ CからはじめるPDCA』，日本能率協会マネジメントセンター
- 畑村洋太郎（2006），『技術の伝え方』，講談社
- 浜田博文編（2012），『学校を変える新しい力』，小学館
- ピーター・M・センゲ（2011），『学習する組織 システム思考で未来を創造する』，英治出版
- 姫野完治（2012），「校内授業研究を推進する学校組織と教師文化に関する研究（1）」，『秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要』，pp. 157-167
- 姫野完治（2013），『学び続ける教師の養成 成長観の変容とライフヒストリー』，大阪大学出版会
- 平田オリザ（2012），『わかりあえないことから』，講談社
- 府中市立府中第五小学校（2012），『学校におけるOJTを活用した人材育成』（実践報告書）
- 古川久敬・山口裕幸編（2012），『先取り志向の組織心理学 プロアクティブ行動と組織』，有斐閣
- 堀公俊・加留部貴之（2010），『教育研修ファシリテーター』，日本経済新聞出版社
- 堀公俊（2010），『チーム・ファシリテーション 最強の組織をつくる12のステップ』，朝日新聞出版
- 堀公俊（2013），『ビジネス・フレームワーク』，日本経済新聞出版社
- 堀哲夫（2013），『教育評価の本質を問う 一枚ポートフォリオ評価 OPPA 一枚の用紙の可能性』，東洋館出版社
- 丸山和昭（2011），「高校教員の専門職性と研修意識－東北地方における質問紙調査の分析から－」，『福島大学総合教育研究センター紀要』，第11号，pp. 37-44
- 油布佐和子編（2007），『転換期の教師』，放送大学教育振興会
- 横溝紳一郎（2001），「アクション・リサーチ－日本語教師の自己成長のために－」，日本語教育通信，第39号，国際交流基金
- 渡部信一編（2010），『「学び」の認知科学事典』，大修館書店

高等学校 OJT 推進者のための
授業力向上ガイドブック

平成 26 年 3 月

岩手県立総合教育センター
教科領域教育担当